

Overview: 私たちは神の諸地方召会の唯一の立場を見て、一つの都市にただ一つの召会を持つという実行をしなければなりません。私たちは宇宙的なキリストのからだの唯一の一を見て、それを守らなければなりません。私たちは主の頭首権に服従することによって、またからだによって均衡がとられることによって、召会生活を実行しなければなりません。私たちは十字架、命としてのキリスト、聖霊、キリストの頭首権、からだ、私たちの仲間の信者たちに対する寛大な態度、神の御言を召会の霊的な憲章(霊的な規則や規律)として取らなければなりません。この憲章は外側のルールではないので、霊を活用して祈り、主と交わることで、内側で主観的に経験する必要があります。

I. 私たちは神の諸地方召会の唯一の立場を見て、そこに立たなければなりません—初期の召会生活の実行は、一つの都市に一つの召会、一つの都市にただ一つの召会を持つという実行でした: A. 「コリントに在る神の召会へ、すなわち、キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち、それと共に、私たちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ。彼は彼らのもの、また私たちのものです」(Iコリント1:2): 1. 召会が「神の」ものであることは、その本質における召会の内容を指しています。2. 「コリントに在る」召会は、コリントの地方を示しており、召会の存在、出現、実行のためです。そのような地方は諸地方召会の地方の立場となり、その上に諸召会はそれぞれ建造されます。ですから、地方が自然に召会の立場となります。3. 「キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち」は、召会の枠組みとしての構成要素です。4. 「それと共に、私たちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ」が示しているのは、この書簡が何世紀にもわたって何千もの場所で人々に読まれてきており、また読まれるであろうということです。今日でさえ、私たちはこの書の受取人です。5. キリストが「彼らのもの、また私たちのもの」であることが意味するのは、キリストがコリントにいる地元の聖徒たちの分け前であり、また至る所にいるすべての聖徒たちの分け前でもあるということです。彼らはキリストの交わり(享受)にあずかっており、この交わりの中へとすべての信者は信実な神によって召されています。』

B. 聖徒たちの間の分裂は、使徒(かしらであるキリストの代理権威)によって罪定めされています。

C. キリストは分けられません。すなわち、キリストは唯一であり、分けられることができず、分けられません。

D. 分裂は肉のものであり、人の方法にしたがっています。

E. 私たちは今日のキリスト教の分裂した混乱する墮落の下で、私たちの実行を見る必要があります: 1. 私たちはカトリックの異端、プロテスタントの宗派、いかなる種類のクリスチャンのフリーグループにもあずかりませんし、あずかるべきではありません。2. しかし主イエス・キリストを信じ、彼の血によって贖われ、聖霊によって再生され、分裂を引き起こさず、分裂を作らず、偶像を礼拝せず、罪の中に生きない、キリストにある個別の信者たちを、私たちは承認し、受け入れます。それは、たとえ彼らが依然として、前に挙げた分派のどれと関係していてもです。3. 私たちは、全世界の主の回復にいるすべての信者と一です。そして、ヒラデルヒヤの原則の中で、すべての兄弟たちを愛することを選びます。4. 私たちはいかなる信条も持ちません。私たちはただ、聖書そのものによって、また聖書そのものにしたがって正しく訳され、解釈された唯一の聖書を持ちます。』

III. 私たちは主の頭首権に服従することによって、またからだによって均衡がとられることによって、召会生活を実行しなければなりません: A. 私たちは使徒行伝から、また使徒第15章における使徒たちと長老たちの経験から、決して私たち自身で決定しないことを学ばなければなりません。更に、私たちは他の人に提案したり、指示したりするべきではありません。私たちのだれも、これを行なう資格はありません。1. 私たちは主や主人ではなく、収穫物の主でもありません。主イエスだけが収穫物の主、主人、からだのかしらです。私たちは自分自身で決定しないことによって、彼を尊ばなければなりません。2. もし私たちが他の人にどこへ行くべきかを告げるなら、彼らは祈る必要はなく、ただ私たちの言葉にしたがって行動するだけです。こうすることは主の地位を奪い、私たち自身を主とすることです。これは主に対する最大の侮辱です。3. あらゆる人は、主の導きについて明確になるまで祈らなければなりません。あらゆる人は主の臨在の中へともたらされて、主と接触しなければなりません。』

IV. 私たちは召会の霊的な憲章(霊的な規則や規律)を実行しなければなりません。それは十字架、命としてのキリスト、聖霊、キリストの頭首権、からだ、私たちの仲間の信者たちに対する寛大な態度、神の御言です: A. 宮の祭壇はキリストの十字架を表徴し、それは内庭の中心であるだけでなく、宮の範囲全体の中心でもあります。この祭壇は、十字架を予表し、実は宇宙の中心です。1. 十字架は宇宙の中心として、キリストのすべてを含む死を指し示しており、それは神、人、全被造物を含んでいました。十字架上の死は神にとっては解放であり、人とすべての消極的な事物にとっては終結でした。2. キリストの死の中で、神は人の中で死を経過して解き放たれ、人は神の中で死んで終結させられました。主の死は彼の解放でした。私たちが十字架を経過すればするほど、命としてのキリストはますます他の人の中へと解き放たれます。3. 十字架はあらゆる方向に拡大し、神の建造の隅々に至ります。ですから、私たちは神の家の中で神と接触し、彼の豊富を享受することを願うなら、十字架を経過しなければなりません。B. もし私たちが命としてのキリストを持たないなら、召会生活を持ちません。召会生活とは、団体的に私たちによって実際化された命としてのキリストです。』

C. 私たちは十字架をもって自分自身を調べるなら、主イエス・キリストを尊び、大きく表現し、高く上げ、尊重し、正しい地位にいて、私たちの霊の中の聖霊を経験します。その霊は私たちの憲章です。もし私たちが語っているとき、その霊の内なる油塗りを持たないなら、停止するべきです。

D. キリストは昇天において、正式に就任して、全宇宙の満ち満ちた頭首権を得ました。キリストは第三の天で、召会に対する万物の上のかしらとされました。彼はまたあらゆる人のかしらでもあります: 1. キリストの頭首権は、他のいかなるかしらや小さなかしらもあることを許しません。他のいかなるかしらもキリストに対する侮辱です。2. 私たちは神の家の中でどのように振る舞うかを知るために、まず、何を行なうにもキリストの頭首権を侮辱しないように注意しなければなりません。3. 多くの兄弟たちはしばしば、どのように主と接触するかを学ぶように励ますのではなく、何を行なうべきかを聖徒たちに告げることによって、無意識のうちにキリストの頭首権を侮辱しています。

E. 私たちはキリストのからだによって規制され、拘束され、制限されなければなりません。一方で、私たちはからだの肢体として自分の度量の中にとどまらなければなりません。もう一方で、私たちはからだの中で、からだに対して、私たちの務めを「十分に果たし」、私たちの務めの満ち満ちた度量を満たさなければなりません。私たちが言うこと、行なうことはすべて、からだの中で、からだを通して、からだのためでなければなりません。

F. キリシヤンが分裂するのは、寛大の霊に欠けているからです。彼らはローマ第12章のからだについて話すかもしれませんが、私たち

II. 私たちは宇宙的なキリストのからだの唯一の一を見て、それを守らなければなりません:

A. 宇宙的なキリストのからだの唯一の一は、その霊のものであり、信者たちはその一を破るべきではなく、平和の結合するきずなの中で熱心に保つべきです。

B. 全宇宙に唯一無二のキリストのからだがあり、三一の神をその内容としています: 1. 一つ霊はその内容の本質です。2. 一つ主はその内容の要素です。3. 父なる神はその内容の源であり、この方は三一としてすべての上に、すべてを貫き、すべての中におられます。

C. 私たちは宇宙的なキリストのからだのブレンディングを見て、実行しなければなりません:

1. 神はからだを調和させ(ブレンディング)しました。これはキリストのからだのすべての個々の肢体のブレンディング、ある地域におけるすべての召会のブレンディング、すべての同労者のブレンディング、すべての長老のブレンディングです。2. そのようなブレンディングは交際ではなく、個々の肢体たち、地域の諸召会、同労者、長老が享受し、経験し、あずかっているそのキリストのブレンディングです。3. このブレンディングは宇宙的なキリストのからだを建造するためであり、神の大きい喜びにしたがって、神のエコノミーの最終目標としての新エルサレムを究極的に完成するためです。』

B. 主の行動のために、私たちはまたからだによって均衡がとられる必要があります：

1. 仮に、導く人が、多くの祈りの後、ある事柄について真に負担を持つとします。そのとき彼らが行なうべきことは、交わりを通して彼らの負担を聖徒たちに伝え、聖徒たちに祈るよう求めることです。**2.** 最終的に、聖徒たちは主から個人的な導きを受け、それにしたがって行動するでしょう。このようにすれば、だれも個人主義的であったり反逆したりしません。

はローマ第14章なしに、決してからだの生活を持つことはできません：1. ローマ第12章に啓示されているからだの生活を実行するために、私たちはローマ第14章に啓示されているような、信者たちを受け入れる実行上の学課を学ばなければなりません。それは、召会生活がすべてを含むものとなり、すべての種類の真のクリスチャンを含むことができるためです。**2.** そのように受け入れることは、ローマ第12章2節で述べられている造り変えを必要とします。もし私たちが天然的なままであるなら、教理や実行で私たちと見方が異なっている人たちを受け入れることができないでしょう。**3.** 人が真のクリスチャンであり、新約の基本的な信仰を持っている限り、たとえ彼が教理の面で私たちと異なっても、私たちは彼を排除すべきではありません。そうではなく、私たちは同じ一つ主の中で彼を受け入れるべきです。

G. 「あなたの言葉は精練されており、あなたのしもべはそれを愛します」(詩119:140)：

1. 聖書、神の言葉は、神の息吹き出したものです。神の語りかけは神の息吹き出しです。ですから、彼の言葉は霊、あるいは息です。こういうわけで、聖書は霊としての神の具体化です。**2.** ですから、その霊は聖書の本質、実質です。それは、燐がマッチの本質的な実質であるようにです。私たちは自分の霊で聖書の霊を擦って、神聖な火を付けなければなりません。

第一日：I コリント1:2 コリントに在る神の召会へ、すなわち、キリスト・イエスの中で聖別された者たち、召された聖徒たち、それと共に、私たちの主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているすべての者へ、彼は彼らのもの、また私たちのものです。

啓1:11 それはこう言った、「あなたが見ていることを巻物に書いて、七つの召会に、すなわち、エペソに、スミルナに、ペルガモに、テアテラに、サルデスに、ヒラデルヒヤに、ラオデキヤに送りなさい」。

第二日：I コリント1:10 さて兄弟たちよ、私は、私たちの主イエス・キリストの御名を通して、あなたがたに懇願します。どうか、あなたがたがみな同じ事を語り、あなたがたの間に分裂がなく、同じ思いの中で、また同じ意見の中で調和されますように。

13 キリストは分けられているのでしょうか？パウロはあなたがたのために十字架につけられたのでしょうか？それともあなたがたは、パウロの名の中へとバプテスマされたのでしょうか？

第三日：エペソ4:3 平和の結合するきずなの中で、その霊の一を保つことを熱心に努めなさい。**4** 一つからだ一つ霊、それはあなたがたも、あなたがたの召しの一つ望みの中で召されたようにです。**5** 一つ主、一つ信仰、一つバプテスマ。**6** すべてのものの神また父は一つ、この方はすべての上に、すべてを貫き、すべての中におられるのです。

エペソ3:8 すべての聖徒のうちで最も小さい者よりも小さいわたしに、この恵みが与えられたのは、キリストの計り知れない豊富を、異邦人に福音として宣べ伝えるためであり、**9** それはまた、万物を創造された神の中に、各時代にわたって隠されてきた奥義のエコノミー[経綸]が何であるかを、すべての人を照らして明らかにするためであり、**10** 今、天上にある支配たちや権威たちに、神の多種多様な知恵を、召会を通して知らせるためであり、

第四日：使徒15:22 その時それは、使徒たちと長老たち、および全召会にとって良いと思われたので、彼らの間から人々を選び、パウロとバルナバと一緒にアンテオケに送った。…

25 私たちは一つ思いとなって人々を選び、私たちの愛するバルナバとパウロと共に、あなたがたに送るのが良いと思われました。

28 なぜなら、聖霊と私たちには、…良いと思われたからです。

ルカ10:2 そして彼らに言われた、「収穫物は多いが、働き人は少ない。だから、収穫物の主が、彼の収穫物のために働き人をせき立てて送り出してくださるように、彼に祈り求めなさい。

第五日：I コリント12:13 なぜなら、私たちはユダヤ人もギリシャ人も、奴隷も自由人も、みな一つ霊の中で、一つからだの中へとバプテスマされ、みな一つ霊を飲むようにされたからです。**14** 体は一つの肢体ではなく、多くの肢体から成っています。

第六日：I ヨハネ2:20 あなたがたは聖なる方から油塗りを受けているので、あなたがたすべては知っています。

ローマ14:1 信仰の弱い人を受け入れなさい。ただ、彼の考え方を批評することにならないようにしなさい。

《預言の準備》

1
自己、てん然を捨て、けんぞうされて、
ともにみやとなり、えいこう満たす。
たかぶり、たんどく、とく異せいを捨て、
主の權威にふくし、主の住まいとなる。

2
せい長し、変えられ、供給し、建造され、
機のを果たして、ひとをしょう就す。
自分にぞくすもの、たかくひょう価せず、
すべてかたよらず、きん衡をたもつ。

3
かしらにつながり、主の豊富、享受す；
かみ増しくわわり、円じゆくにいたる。
主のあいを知って、かん全にせい長し、
キリストの豊満の身のたけとなる。

4
み住まい、からだに、けんぞうされて、
主のうつわとなり、えい光あらかす。
はなよめ、みやこは、いまや地上にあり、
なが栄こう照らし、ひとにかがやく。

一
救我脱离自己、天然，主阿，我愿被建造，
同众圣徒作你圣殿，为着充满你荣耀。
救我脱离乖僻个性，脱离骄傲与单独；
使我甘愿服你权柄，让你有家可居住。

二
生命供应，活水流通，长进、变化又配搭；
守住等次，尽我功用，成全别人，不践踏。
自己所经，自己所见，所是、所有并所能，
不再高估，不再稍偏，接受一切的平衡。

三
持定元首，联络供应，享受基督的丰富；
充满神的一切丰盛，因神增加得成熟；
同尝基督莫测大爱，赏识基督的阔长；
长大成人，不作婴孩，满有基督的身量。

四
作神居所，作你身体，主阿，我愿被建造，
成为你的团体大器，让你来显你荣耀。
圣城景色、新妇荣美，今在此地就彰显，
透出你的荣耀光辉，将你照耀在人间。

840. The Church – Her Building

1
Freed from self and Adam's nature,
Lord, I would be built by Thee
With the saints into Thy temple,
Where Thy glory we shall see.
From peculiar traits deliver,
From my independent ways,
That a dwelling place for Thee, Lord,
We will be thru all our days.

2
By Thy life and by its flowing
I can grow and be transformed,
With the saints coordinated,
Buildd up, to Thee conformed;
Keep the order in the Body,
There to function in Thy will,
Ever serving, helping others,
All Thy purpose to fulfill.

3
In my knowledge and experience
I would not exalted be,
But submitting and accepting
Let the Body balance me;
Holding fast the Head, and growing
With His increase, in His way,
By the joints and bands supplying,
Knit together day by day.

4
By Thy Spirit daily strengthened
In the inner man with might,
I would know Thy love surpassing,
Know Thy breath and length and height;
Ever of Thy riches taking,
Unto all Thy fulness filled,
Ever growing into manhood,
That Thy Body Thou may build.

5
In God's house and in Thy Body
Buildd up I long to be,
That within this corporate vessel
All shall then Thy glory see;
That Thy Bride, the glorious city,
May appear upon the earth,
As a lampstand brightly beaming
To express to all Thy worth.